



## 内政

### 1. 冬期国民議会の開会

4日、冬期国民議会が開会する（8月12日終了）。本会期では、省庁及び副大臣数の増加（それぞれ16から18、8から10へ）にかかる法改正案及び特別選出議員の増加（4から6へ）にかかる憲法改正案等が議論される。

（4日：デイリー・ニュース紙）

### 2. カーマ大統領引退後のパッケージ

政府は、大統領引退後の恩典にかかる法の改正案を今会期の議会に提出しようとしている。同法案では、提供される住居の場所が自由化（当館注：これまでは首都のみ）される他、退職金の支給等の規程も盛り込まれている。

（11日：ウィークエンド・ポスト紙）

### 3. 地方議会選でBCPが勝利

16日に行われたラモツワ選挙区での地方議会選においてボツワナ議会党（BCP）が「民主改革のためのアンブレラ」（UDC）の支持を得て勝利した。与党ボツワナ民主党（BDP）との票差は102票（BCP 827票対BDP 725票）。

（20日：ボツワナ・ガゼット紙、モニター紙）

## 外交

### 1. 次期AUC委員長選に関しモイトイ外相は反論

モイトイ外務国際協力大臣はAUC委員長選における障害とされる事柄（国際刑事裁判所（ICC）に係るボツワナの立場及びカーマ大統領のAU総会不参加）につき以下のとおり反論。

（1）アフリカとしてローマ規程を批准している限り、単にそれがアフリカのために機能していないとの理由だけでICCを脱退してはならない。ボツワナはケニアと合意しているので、ボツワナだけ立場が異なるというのは間違いである。

（2）首脳としてカーマ大統領だけがAU総会を欠席しているわけではない。欠席にはいろいろな理由がある。

（13日：デイリー・ニュース紙）

### 2. ナミビア大統領がボツワナを訪問

（1）11日、ガインゴブ・ナミビア大統領が2日間の公式訪問のためハポロネに到着した。到着後、大統領府において首脳会談が行われ、森林火災・管理等にかかるMOUが署名された。

（2）同日の午餐会において、カーマ大統領は両国の共通点（歴史、文化、多数のナミビア出身のボツワナ人の存在、人口規模、産業構成（鉱業、農業、観光）、法の支配、人権尊重、高中所得国、政治的安定性等）を挙げた後、ドライポート（当館注：道路・鉄道と港湾をつなぐ内陸の積み荷載せ替えターミナル）を生かすための鉄道整備、両国間のワンストップボーダーポスト設立の

重要性等に言及した。

(3) 午餐会の後、同大統領は国民議会で演説を行い、両国にはエネルギーや水の不足、干ばつといった共通の課題があること等述べた。

(4) 12日、ガインゴブ大統領は、ナミビア・ビジネス・フォーラムに参加。その後、ダイヤモンド・トレーディング・カンパニー・ボツワナ(DTCB)を視察した。また、帰国前にデブスワナ社のジュワネン・ダイヤ鉱山を視察した。

(12～14日：デイリー・ニュース紙)

### 3. 北朝鮮弾道ミサイル発射にかかる外務省プレスリリース

ボツワナ政府は9日に実施された北朝鮮による弾道ミサイル発射実験に懸念を表明し、迎撃ミサイルシステムの配備を支持する旨表明した。

(12日：ボツワナ政府フェイスブック)

### 4. 南シナ海問題に関する比中仲裁裁判に関し中国大使が反論

(1) 13日、当地中国大使は、本件にかかる中国の立場を説明する記者会見を当地で開催した。中国大使は同記者会見で、仲裁裁判の判決に法的拘束力はなく、受け入れられない、世界で60か国が中国の立場に理解を示しているが、そのうち37はアフリカ諸国である、ボツワナはその37か国の中に入っていないが、中国の立場を支持してくれることを期待する旨述べた。

(2) カーマ大統領は上記記者会見に先立ち中国大使を呼び出し、両国が本件に関し議論するまで同記者会見を延期するよう要請した。中国大使は大統領の要請を無視し

記者会見を行ったが、記者会見の内容を裁判結果に限定し、両国間の緊張関係については言及しない旨が両国間で合意されたと理解される。

(3) ある外交筋は、南アで開催された中国アフリカ協力フォーラム(FOCAC)での中国の600億ドルの支援パッケージに鑑み、ボツワナは同パッケージでブラックリスト化されないよう慎重に対応すべきと警告した。

(15日：メヒ紙、ボツワナ・ガゼット紙、17日：パトリオット紙、サンデー・スタンダード紙、20日：ボツワナ・ガゼット紙)

### 5. アフリカのリーダーはモイトイ候補を無視

AUC委員長選挙でモイトイ候補は23票を獲得し第1位となったが、投票数の2/3に達せず、選挙は2017年1月に延期された。新たな候補の参加も可能となっている。

(20日：デイリー・ニュース紙、ボツワナ・ガゼット紙)

## 経済

### 1. 経済指標

#### 1) ボツワナの主要経済指数

##### ・経済成長率

2016年第1四半期の経済成長率は、前期比1.8%。

##### ・インフレ率

2016年6月は2.7%(2016年5月は2.8%)。

##### ・為替レート(FNB)

2016年7月29日

1 プラ=0.091米ドル

1 プラ=1.281南ア・ランド

1 プラ=9.486円

2016年6月30日：

1 プラ=0.088米ドル

1 プラ=1.315南ア・ランド

1 プラ=9.19円

## 2. ダイヤモンド産業

### 1) オカバンゴ・ダイヤモンド・カンパニー (ODC) の売上げが35%上昇

政府系企業であるODCの売上げが、需要の増加により前年比35%増加し2億8,400万ドルとなった。

(8日：メヒ紙)

### 2) デブスワナが減産

アングロアメリカは、デブスワナの第二四半期のダイヤモンド産出量が19%減産したことを発表した。世界的なダイヤモンド需要を考慮した結果による。

(22日：ボツワナ・ガーディアン紙, 25日：ウィークエンド・ポスト紙)

## 3. エネルギー・資源

### 1) 鉱山の安全が優先

一連のBCL社鉱山での事故発生に関し、マシシ副大統領は、鉱山労働者との集会において、適切な安全措置を取る旨述べた。

(6日：メヒ紙)

### 2) 政府は100MWのコールベッドメタン (CBD) 電力入札にゴーサイン

政府は、CBD電力開発案件に関し、2社 (Tlou Energy, Sekaname PVT) を選択した。

(8日：メヒ紙)

### 3) Mabesekwa 石炭プロジェクトは政府から環境面で同意を得る

南ア向け輸出電力用 IPP 事業を進めている Shumba Energy は、地上権取得と FS を終了し、環境面においてもボツワナ政府から事業実施の許可を得た。

(10日：サンデー・スタンダード紙)

## 4. 大統領、干ばつ年を宣言

13日、大統領府は、カーマ大統領が2015/16年度を干ばつ年と宣言する旨のプレスリリースを発出した。本年7月1日から来年6月30日までの間、政府の救済措置が担当省庁を通じて実施される。

(24日：メヒ紙)

## 5. 公共調達委員会、電子入札システム導入

公共調達委員会 (PPADB) はオンラインの電子入札システムを導入した。同システム導入により、入札が効率・透明化し、また遠隔地からの参加も可能となる。

(6日：メヒ紙)

## 6. 中国系企業が大型土木事業を受注

China Civil Engineering Construction Company がパンダマテンガ地域の砂利道及び排水路整備事業 (1800万プラ) を受注。同事業は、同地域の農業インフラ開発計画の一部でアフリカ開発銀行が融資。

(17日：サンデー・スタンダード紙)

## **7. ボツワナはニュージーランドとMOUに署名**

ボツワナとニュージーランドは、オンライン商業登記計画にかかるMOUを署名した。ニュージーランドは、700万プラの支援を実施する。

(20日：デイリー・ニュース紙)

## **8. ボツワナは輸入電力に依存**

国内電力供給の不足により、ボツワナは未だ輸入電力に依存。前年比で16.1%増加した。

(23日：ウィークエンド・ポスト紙)

## **9. SADCは支援をアピール**

カーマ大統領（SADC議長）は、SADC地域の干ばつ災害を宣言し、各ステークホルダーに対し24億米ドルの人道支援を要請した。

(27日：デイリー・ニュース紙)

## **文化**

### **1. タボンで日本の芸術を展示**

先週、タボン・ビジュアルアートセンターで「手仕事の形」展（当館注：国際交流基金の巡回展）が開幕した。開幕式典で尾西日本国大使は、本展示会は日・ボツワナ外交関係樹立50周年を記念するものと述べた。展示会は7月27日まで続く。

(15日：ボツワナ・ガーディアン紙他)